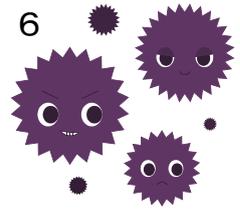


手足口病

手や足、口の中に水疱ができる夏カゼの一種で、コクサッキーA16ウイルスやエンテロウイルスが原因で起こります。感染力が強いウイルスなので、一度かかってもまたかかってしまうことがあります。口の中の水疱がつぶれるとひどく痛みます。



<病気の特徴>

せきや唾液による飛沫感染のほかに、便中に排出されたウイルスが手について、それが口から入ってうつることもあります。

この病気の特徴は、手のひら、足の裏、口の中に周囲が赤くて真ん中が白い、米粒大の水疱ができることです。ひじやおしりにまで出るタイプや、口内炎がひどく手足の発しんが少ないタイプなどさまざまです。

この水疱は大きさがまちまちで、平たい楕円形をしています。手足の水疱には痛みや痒みはなく、破れることもありませんが、口の中のものは破れてひどい痛みをとまなうカイヨウになるため、唾液を飲み込むのも痛い状態になります。

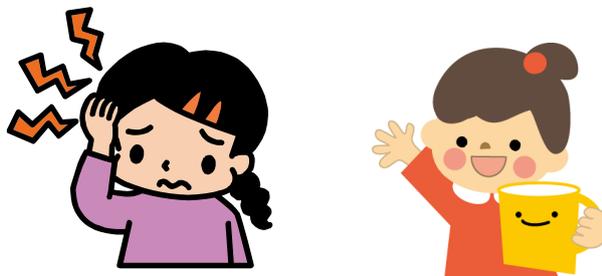


熱は出ても37～38度くらいで、1～2日で下がりますが、ときには下痢や嘔吐をとまなうこともあります。

<注意すること>

基本的には後遺症や肺炎などの合併症の心配はありませんが、ごくまれに無菌性髄膜炎を併発することがあるので、高熱が出たり頭を痛がったり、ひきつけ、嘔吐などの症状がある場合はすぐに病院を受診しましょう。

口内の水疱がつぶれてカイヨウになったときは、痛くてものを食べるのをいやがります。痛みが激しいときには水分も取りにくくなりますが、水分はきちんと取らないと脱水症状の心配があるので、水分は十分にとるようにしましょう。また、接触や飛沫により感染しますので、手洗いうがいを励行しましょう。



詳しくはこちら(国立感染症研究所感染症情報センター)

http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k01_g2/k01_27/k01_27.html